

中丸地区 村政懇談会

日 時：平成 26 年 6 月 26 日（木） 午後 7 時から 9 時まで

場 所：中丸コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長）

事務局（課長，副参事，課長補佐，自治推進課職員 5 名） 計 8 名

自治会長（押延区，須和間区，舟石川中丸区，原子力機構長堀区，緑ヶ丘区，南台区） 計 6 名

自治会連合会（理事，事務局長，事務局職員 2 名） 計 4 名

参加者：押延区 9 名，須和間区 12 名，舟石川中丸区 6 名，原子力機構長堀区 0 名，緑ヶ丘区 9 名，南台区 8 名，フローレスタ須和間区 2 名，その他 40 名 計 86 名

報道関係：読売新聞社

司会進行：舟石川中丸区副自治会長 総計 105 名

《次第》

開会の言葉

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 地区自治会長あいさつ
3. 村長あいさつ及び村政に関する説明
4. 中丸地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
5. 自由質問

《記録》

【3. 村長あいさつ及び村政に関する説明後の質疑】

南台区住民：日本原子力発電の安全審査について。原発の安全性と自然の脅威は別問題なのでよく検討してほしい。

村長：原電第 2 が動こうが動かまいが東海村は避難計画を作らざるをえないと思っている。よく検討したい。

南台区住民：地域高齢化が進んでいる。5 年，10 年先が危うい。現在も買い物に行けない人が大勢いる。公共交通機関について書いてあるが，もっと具体的に話してもらいたい。

村長：実験的にバスを走らせるのにも許可が必要で，秋以降になるかと思う。コミュニティバスと路線バスとでも期間が変わってしまう。できれば今年度中に走らせたい。検討が必要であれば実証実験の期間を来年まで延ばす。いずれにしても実証実験を行なう前に皆様にお知らせしたい。

南台区住民：予約制での運行ではなく，30 分に 1 本くらいの循環型の運行であるとありがたい。

中丸地区 村政懇談会

【4. 中丸地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

南台区住民：信号については意見を言わせていただきたい。こんなに時間が経っていて、もし事故があったら大人の責任だ。子どもは国の宝である。信号をつけるだけが対策なのか。例えば新しい道路を通すことで交通量が減る。門扉を片側だけ取るとか、みんなで知恵を絞ってがんばってもらいたい。

緑ヶ丘区住民：自主防災会の事務局。自助，共助，公助という言葉がある。真の役割分担の策定が必要では。共助の役割を明確にして欲しい。

村民生活部長：3日間は住民の皆さんでしのいでほしい。3日間しのいでもらうというのが共助。その要が自主防災組織。自主防災組織が中心になって基幹避難所で運営に当たっていただき，その3日間で行政でも順次各地域に支援をしていくことを考えている。公助がいきわたるまでは共助。備蓄倉庫を各基幹避難所に備えている。この回答にもあるが40点ほどの防災資機材がある。コミセンの井戸は飲料には向かないが生活用水には使うことができる。集会所のことだが，一時的な集合場所であり，集会所で避難生活をおくることは考えていない。中丸地区では，中丸コミセン，総合体育館，中丸小学校，東海南中学校などが避難所となる。災害の規模に応じて順次開設していくが，6,500人ほどの収容が可能かと考えている。非常用食料などは基幹避難所ではなく，小学校あるいは中学校にまとめて置いてあり，そこから各基幹避難所に配送することを考えている。公助の手が届くまでは共助でしのいでもらいたいと考えている。

緑ヶ丘区住民：協働の指針の防災対策に関して。災害が起こった際の業務分担等の指針をつくる計画はあるのか。

村民生活部長：村長からもあったが，具体的に協働の指針に防災の際の対応を盛り込めるかはこの1年で考えていく。協働の指針に盛り込めない場合は別途示したい。

緑ヶ丘区自治会：早急にやっていただきたい。よろしく願いしたい。

須和間区住民：自治基本条例は当たり前の話。それよりも村民ではなくて，村民を構成する自治会の割合はどの程度なのか。大多数の人達がこの枠に入っているのでは。もともと自治会は自助を促進するものである。自治会の組織の権限と責任をもっと強化して欲しい。そのためならば今の自治基本条例を変えても良いのではないか。自治会を中心に協働のまちづくりを進め，砂塵問題を解決するために協力して欲しいという回答ができないのか。まちづくりのまちとはなにか。いったいどのようなまちを作ろうとしているのか。その概念を教えて欲しい。

村民生活部長：自治会加入率が村全体では高いわけではない。自治会加入率をあげるために自治会連合会でも，新規転入者への加入促進運動もおこなっている。今までは自治会に加入しないとデメリットがあるということですからすすめてきたため上手いかなかった。今後は自治会に加入することでのメリットを強調していきたい。

中丸地区 村政懇談会

自治基本条例に基づいて進めていくまちづくりの「まち」の概念だが、基本的には安心して安全に暮らせるまち、村長の言う持続可能なまちづくりを考えており、それに向けて進めていく。

村長：まちづくりの「まち」の概念については自治基本条例第4条に書いてある。地域自治、自治会のことも謳っている。ただ自治会が全てかという点、他の団体も活動しているため、それが全て自治会の傘に入るのは難しい。まずは地域でまとまって欲しい。いろんなパターンがあるため、時間をかけて行いたい。自治会ありきでやると上手くいかないところもある。

須和間区住民：砂塵に配慮した計画を作って欲しい。高齢化が進んでおり、後継者がおらず、現在使われている畑地は冬には何も植わっていない。冬の強い風で砂の嵐が起こる。それが実態。上手い方法を考えて欲しい。畑を潰せといった話はしていない。住みやすい環境で生活できないか。もう一つは砂塵対策で良いアイデアがないという話について。砂塵問題を抱えている人に自分たちでやってもらいたいと聞こえる。生垣や木を植えるにしてもそんなに土地はない。その現実をもう少し考えて欲しい。こういったことを今後どう展開していくのかを、まちづくりの観点のひとつとして検討していく場を持って欲しい。

建設農政部長：区画整理事業で畑地等への配慮をして欲しいとの話だが、中央土地区画事業は東海駅を中心に4地区ある。良好な宅地を作るためだが、それ以外にも道路や公共施設等を作っていく。そこには最終的には農地もあるとは思いますが、市街化区域のため、そのなかに緑地という位置付けでつくっていく。ただ農林サイドで行うのと建築サイドで行うのとでも違ってくる。また遊休農地だか、現在さつま芋が植えられているが、さつまいもが終わった後は畑が空く。その畑を休ませている3月から5月の間に強い風が吹き、埃がでる。今年4月に農地中間管理機構という組織が農地の集約化や集積をする。農地を買うというのも一つの手なので、そのあたりを活用すれば砂埃対策も少しは改善されるのではないかと考え取り組んでいく。

村長：検討していく。

みぎわ幼稚園園長：砂埃があると子どもが遊べない。美味しいさつま芋をとるためには強い農薬を土の中に入れていたと聞いた。風にこの土が吹かれているのであれば問題。その問題を調べて欲しい。どれくらい体に入れば問題になるのか。

司会：時間もないたため、この回答は後日文書等でお願ひします。

【5. 自由質問】

緑ヶ丘区住民：地区自治会環境部会長。中丸コミュニティセンターの西側に通学路があり、今の時期は草がはびこる。里山の会として年に2回草刈をしている。なぜ我々が行っているのか。通学路は村の管轄のはず。除草を委託してもらいたい。防犯灯があるが役に立っていない。村としての対応策があるのか聞きたい

中丸地区 村政懇談会

建設農政部長：かなり広い道路の草刈。村では一般村道は年に2回草刈を行っている。農道といっても里道だが、今後草刈できるように内部で調整する。まだ確定ではないので、調整できたら報告する。

須和間区住民：部原工業専用地域について。工業専用区域に指定され、高額な都市計画税をとられた。平成26年、利用対策協議会がつくられた。平成25年に工業団地整備促進連絡協議会が設置された。これができて1年半だが、未だに開かれていない現状である。部原工業専用地域は東海村唯一の工業団地である。雇用を増やす観点からも一刻も早く誘致を行って欲しい。今後どのような対策をとり、どのような企業を誘致するのか、回答をお願いしたい。

建設農政部長：部原の工業専用地域は都市政策課ですすすめている。部原地区は18haと大変大きな土地があり、その用地買収をすすめている。進捗状況だが、平成26年3月は緑地、調整池併せて56%の買収状況となっており、用地測量などは、随時発注している。道路は27年度も引き続き進め、28年度末には1工区が供用開始できればと考えている。平成29年に2工区の供用開始を考えている。企業誘致はまちづくり推進課である。どのような企業かということだが、今は声かけをしている段階である。

押延区住民：須和間区の現状をお分かりでしょうか。家にビニールシートを敷かないと砂埃が凄い。村では抜本的な対策はないとのことだが本当はないのか。各自治会も困っているのならば、なぜ各自治会から部会を立ち上げないのか。もっとプロジェクトを立ち上げ、真剣に考えて欲しい。村長がやるといっているので期待している。

須和間区住民：須和間区の集会所を管理者をやっている。集会所の管理費補助金の支払いが1ヶ月半くらい遅れた。2点目はクリーン作戦が運動会と重なったことについて。3点目として障がい児教育についての現状を聞かせてもらいたい。

村民生活部：補助金をタイムリーに支払いできなかったのは担当課の不手際である。今後ないように処理していきたい。

教育長：クリーン作戦と運動会が一緒の日になってしまったのは申し訳ない。今後は重ならないようにしたい。熱中症対策のために春の運動会は定着してきたので、今後ともご協力をお願いしたい。

東海村は特別支援児教育がとても進んでいる。特別支援学級の教室を最も日が当たるところにつくっている。ユニバーサルデザイン教育でやっていき、一人ひとりの弱い部分を受け止めながらやっていく教育を進めている。大事なことは連続的に教育指導していくこと。発達支援センターと小・中学校と連続して進めていきたい。これからの課題としては小学校、中学校、特別支援学校等から戻ったときにどのように対応していくかということである。

舟石川中丸区住民：中央公民館講座・パソコン講座のパソコンがたった6台しかない。いつも申し込んでもはずれる。その倍くらいにして欲しい。また内容も考えて欲しい。

中丸地区 村政懇談会

検討願いたい。最近よく放送でイノシシやサルが出たと聞くがその後のフォローがない。放送の観点として考えて欲しい。

教育次長：応募いただきありがたい。実際に少ないという印象。検討してみる。もっと楽しんでもらえるような講座もやっていきたい。

村民生活部：確かに出たと放送したが、どちらもつかまっていない。イノシシは舟石川あたりと絞り込めてはいる。猿は転々としている。白方の斜面緑地，田んぼ高台，外宿から白方まで行き来しているようだ。先日は外宿から通報。その近辺にしかけをしたもののまだつかまっていない。まだ被害はでていないため大きな騒ぎにはなっていない。なんとか対応したい。

以上